

ダンチュウ

みんなのポテトサラダ大特集号

食こそエンターテインメント

2011 12

860円

dancyu



日本のワイン



いま注目の
5品種

じゃがいもとマヨネーズの楽園！
居酒屋の傑作、京都の味、極旨レシピ…

ポテサラ

100皿

百貨店へ行こう！
dancyuフェア開催記念

文/枝川公一
撮影/有元伸也

ゼックス トウキョウ/ザ バー&カフェ ●東京都千代田区丸の内1-9-1 大丸東京店13階 ☎03-6266-0065 営/11:00~24:00 休/1月1日 大丸東京店の定休日基準に準ずる カード/使えます ●JR東京駅八重洲北口直結。2007年オープン。全56席(カウンター8席含む)。チャージ1000円(18:30~)。カクテル900円~、ウイスキー1300円~。17:00以降の入店は20歳以上。また、ノースリーブ、ハーフパンツ(男性のみ)での入店不可。グランドピアノの生演奏も楽しめ、また夜景も素晴らしい。百貨店の最上階にあるバー、という新しい空間を堪能できる。

みやざき・たけひこ ●1979年6月2日生まれ。東京都出身。21歳のときに、本格的にバーテンダーとしてのキャリアをスタートさせる。



SEX TOKYO/The BAR&Cafe

宮崎 丈彦

「大丸東京店」の地下1階から上りのエレベーターに乗る。途中、入ってくる人、出て行く人。やがて、終点のアナウンスがある。エレベーターは止まる。ドアが開く。「いらつしゃいませ」の声に迎えられる。

たどり着いたところは13階。通路を歩く。やや遠くから人々のざわめきが聞こえてくる。愉し気な声が次第に近づいてきて、やがて自分も、その声の中に入っていく。

宮崎丈彦さんは、このフロアにある「The BAR&Cafe」のバーテンダーである。お酒も食事もしめるレストランバー。ここを職場に選んだ理由のひとつとして、「大きなお店でさまざまなことにチャレンジできること。たくさんのお客様に出会えること」を挙げた。

このバーは、24時まで開いている。街場では珍しいことではないが、ここは百貨店の最上階。ほかに例がないかもしれない。大きな窓からは、東京駅発着の電車もレンガの駅舎も、その奥に広がる皇居も視界に入る。

9月のある日の夕刻。この店の雰囲気は少し違っていた。ビールを飲む人も、カクテルを注文するお客もいるのは、いつもの風景だが、共通しているのは宮崎さんが見かけたことのない人々が点々と。

宮崎さんは納得した。「電車を待っているんだな」

この日は首都圏を台風が暴れ、電車が多数ストップした。復旧を待つ人たちが雨宿りの場所でお酒を楽しんでいる。

る。東京駅と直結する百貨店の最上階にあるバー、というこの店の個性を知るには十分なエピソードである。宮崎さんは、その後も通ってくれる人たちがいることが、うれしい。

また、地方から上京した折りに仕事を済ませ、帰りの新幹線などを待つ間、ここを利用する場合もある。

「お客様に、止まり木のように使っていただくことは、店としてありがたいことです」

宮崎さんは高校卒業後、バーテンダーを目指して、銀座のバーの門を叩いた。厳しいバーテンダー修業の世界を体験して、挫折した。

その後、いろいろな仕事をしたけれど、バーテンダーへの夢は忘れられず、恵比寿のレストランバーから再スタートをきった。師匠は厳しく、2年間しごかれた。バーテンダーは一生続けられる、という思いを強く抱くようになった。

「ぼくは小さなお店より、大きなお店が性に合っている。さまざまなスタッフとコミュニケーションをとりながら自分を成長させていくことが生涯できる仕事」と、いまでは考えている。

別れ際に、宮崎さんは言った。

「お客様に楽しんでいただいて、最後に『ありがとう』と、こちらがお声がけするべき言葉をお客様からいただきたときはうれしい。それでまたいらしてくださいときは言葉には言い尽くせない喜びがあります」

バーテンダー冥利に尽きる、ということであろう。